

黒江小学校の概要

学 校 名 海南市立黒江小学校
所 在 地 〒642-0001 和歌山県海南市船尾 236 番地 4
位 置 北緯 34 度 9 分 22 秒 東経 135 度 12 分 12 秒
創 立 明治 9 年 (1876 年) 9 月 9 日
電話番号 073-482-0147 FAX 番号 073-482-5908
ホームページ HP : <http://www.kuroe-sho.kainan.ed.jp>
Mail (代表) es@kuroe-sho.kainan.ed.jp



- 校章について -
外側は「桜の花びら」、中の二重線は「かたかなで『クロエ』」、中心は「小」を表している。

黒牛の海 紅（くれない）にほふももしきの 大宮人し漁（あさ）りすらしも（巻七）
「黒牛の海が真っ赤に美しく見える。あれは、大和から来た大宮人の女官たちが貝などを漁り拾っているらしい。」
黒牛潟 潮干（しおひ）の浦を紅の 玉裳（たまも）裾引き 行くは誰が妻（巻九）
「黒牛潟の潮が引いた海岸を、赤い美しい袴の裾を引きながら行くのは、誰の妻であろうか、美しい女性だなあ。」
古に 妹とわが見し ぬばたまの 黒牛潟を見れば さぶしも（巻九）
「かつては愛する人と一緒に眺めたこの黒牛潟を今は一人で眺めているのが、まことにさみしいことだ。」

万葉集に掲載されているこの三首には、〈黒牛・黒牛潟〉という名称があり、これが、現在の黒江という地名に由来している。

紀伊続風土記によれば、「此地は古、海の入江にて其の干潟の中に牛に似たる黒き石あり、満潮には隠れ干潮には顕る。因りて黒牛潟と呼ぶ。黒江は黒牛江の略語なり」とあり、“入り江にある黒い牛に似た石”を略して『黒江』という地名がつけられたと考えられている。

このように、古から風光明媚な熊野街道の要所として栄えた当地域は、海南市の西部に位置し和歌山市と隣接、東は熊野街道、南は海南港に面した海沿いに立地している。

また、室町時代に始まったとされる紀州漆器（黒江塗り）とともに栄えた町であり、京風で趣のある「連子格子」の外観を擁する町屋、のこぎりの歯型の町並みなど、漆器の町として独特な景観が形成されている。

そのような地域に創設された黒江小学校は、明治 9 年（1876 年）9 月 9 日に黒江尋常小学校（黒江村 728 番地）として開校した。当時の記録によれば、2 階建て、建坪 64 坪の校舎に職員 3 名、児童数約 100 名でスタートした。その後、明治 28 年（1895 年）に黒江尋常高等小学校となり、明治 42 年（1909 年）には元塩田であった現在地（船尾 236 番地 4）に改築移転している。さらに、現校舎（南側本館）は、平成 24 年 11 月に完成した、比較的新しい建物となっている。

上述の通り、本校の校区内では古くから漆器等の産業が盛んで、以前は本校の保護者等もそれらに関する仕事に従事する方々が大部分を占めていたが、近年ではその陰りとともに、職業が多様化している。

また、児童数は、ピーク時（昭和 30 年代）には、1,800 名を超える時代があったが、少子化等の影響により減少に拍車がかかり、本年度は 103 名（R6. 4. 1 現在）となっている。

本校の歴史を振り返れば、特に、健康・安全・給食教育等に熱心に取り組んできた経緯があり、なかでも、昭和 41 年（1966 年）に日本一健康優良学校（朝日新聞社主催）となったことは特筆すべき出来事だった。当時の受賞を記念して作られた顕彰碑は、今でも校舎中庭から運動場を見つめている。

なお、保護者や地域の方々が本校に寄せる思いはたいへん厚く、学校教育に対する深いご理解や多くのご支援ご協力をいただきながら、日々の学校を運営することができている。

○ 本校へのアクセス

■ 公共交通機関利用の場合

- ・ JR 海南駅より和歌山バス乗車（和歌山市方面）、「黒江バス停」下車、徒歩約 3 分
- ・ JR 黒江駅より徒歩で約 20 分

■ 車利用の場合

- ・ 阪和自動車道海南 I.C. より約 5 分、阪和自動車道海南東 I.C. より約 10 分